



この詩篇で、ダビデは「わがたましいよ 主をほめたたえよ。私のうちにあるすべてのものよ 聖なる御名をほめたたえよ」と、自分自身に向かって「主をほめたたえよ」と呼びかけています。

私たちは疲れてしまったり、倦怠感を感じることがあります。どうしても気持ちが上に向かない時もあります。そういう時に、私たちは聖霊の助けを得て、「わがたましいよ」と呼びかけることができます。

① 主が与えてくださった救いを、思い起こすために

“わがたましいよ 主をほめたたえよ。主が良くしてくださったことを何一つ忘れるな。
主は あなたのすべての咎を赦し あなたのすべての病を癒やし
あなたのいのちを穴から贖われる。主は あなたに恵みとあわれみの冠をかぶらせ
あなたの一生を良いもので満ち足らせる。あなたの若さは鷲のように新しくなる。” 2-

② 主はどのようなお方であるかを、思い起こすために

“主は あわれみ深く情け深い。怒るのに遅く 恵み豊かである。
主は いつまでも争ってはおられない。とこしえに 怒ってはおられない。
私たちの罪にしたがって 私たちを扱うことをせず
私たちの咎にしたがって 私たちに報いをされることもない。
天が地上はるかに高いように 御恵みは 主を恐れる者の上に大きい。
東が西から遠く離れているように 主は 私たちの背きの罪を私たちから遠く離される。” 8-

③ 主の恵みは永遠に変わらないことを、思い起こすために

“人その一生は草のよう。人は咲く。野の花のように。
風がそこを過ぎるとそれはもはやない。その場所さえもそれを知らない。
しかし 主の恵みは とこしえからとこしえまで 主を恐れる者の上にあり
主の義は その子らの子たちに及ぶ。” 1-

“私はこれを心に思い返す。それゆえ、私は言う。「私は待ち望む。主の恵みを。」
実に、私たちは滅び失せなかった。主のあわれみが尽きないからだ。それは朝ごとに新しい。「あなたの真実は偉大です。主こそ、私への割り当てです」と私のたましいは言う。
それゆえ、私は主を待ち望む。” 哀歌3:21-

<話し合ってみましょう>

- ・鍵の言葉の一つは「恵み」です。「恵み」とは、それを受けるのに値しないにもかかわらず無償で与えられる愛やいつくしみです。この世界の原則とは異なりますので、わかりにくいことです。この「恵み」ということについて、自由に話し合ってみましょう。